

令和7年度外郭団体活動状況評価シート No.1

【令和7年3月31日時点】

団体名		公益財団法人吹田市健康づくり推進事業団				所管部室（課）名		健康まちづくり室		
所在地		〒564-0072		吹田市出口町19-2（総合福祉会館内）						
設立年月日		平成3年3月31日			代表者職・氏名		理事長 三谷 一裕			
基本財産		217,000,000円			①本市出資金（本市の出資割合）		円（ %）			
					②本市出捐金（本市の出捐割合）		200,000,000円（92.1%）			
設立目的	「健康づくり都市」を宣言する吹田市との連携のもとに、市民の自主的な健康づくりの実践活動を促進し、支援することにより市民の健康増進に寄与することを目的とする。									
事業内容	(1) 運動、栄養、休養の均衡のとれた生活習慣の形成を目的とした安全で科学的根拠に基づく健康づくりの実践指導 (2) 健康づくり指導者の育成及び健康づくりの地域推進組織の育成、支援 (3) 市民向け健康情報紙の発行、各種パンフレットの発行、配布などによる健康づくりの啓発、普及 (4) 市民参加による健康づくりイベントの開催 (5) その他事業団の目的を達成するために必要な事業				（具体的な事業内容） 1. みんなの健康展の開催 2. 吹田市民健康づくりフェスティバルの開催 2024チャレンジDAYの開催 3. 各種教室等の開催 4. 健康まちづくり支援事業の実施 5. 情報誌紙「健康すいた」の発行 など					
			合計（市職員及び元市職員以外も含む。）						合計（元市職員以外も含む。）	
				うち市職員	うち元市職員					うち元市職員
役員数 （人）	理事 （取締役）	常勤	1		1	職員数 （人）	常勤	1	1	
		非常勤	14	3	2		再任用※1 常時勤務			
	監事 （監査役）	常勤					再任用※1 短時間勤務			
		非常勤	2	1			非常勤	5		
65歳以上の役員数※2 （人）			13		3	臨時雇用員				
評議員 （人）			15	1	2	65歳以上の職員数 （※2）				
元市職員に対する報酬や給与水準が、市再任用職員の水準を上回る。（いずれかに○）						該当 ・ 非該当				
【該当する場合のみ記載】内容										
元市職員に対して退職金を支給している。（いずれかに○）						該当 ・ 非該当				
【該当する場合のみ記載】内容						特定退職金共済制度（掛金3,000円/月）				

※1 再任用職員とは、団体の定年年齢以降における最初の3月31日を超えて雇用されている職員をいう。

※2 65歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている役員数又は職員数。

令和7年度外郭団体活動状況評価シート No.2

【令和6年度決算】

団体名		公益財団法人吹田市健康づくり推進事業団			所管部室（課）名	
					健康まちづくり室	
財務状況（円）	損益計算書	総収入	35,497,816	貸借対照表	資産の部合計	230,681,090
		(うち市受入金)	31,401,584		負債の部合計	5,258,301
		(その他)	4,096,232		(うち有利子負債)	
		総費用	38,003,092		正味財産合計	225,422,789
		経常損益	△2,505,276		(うち一般正味財産)	25,422,789
		当期損益	△2,505,276			
市から団体への支出（円）				主要内容、算出根拠等		
	フロー	補助金	31,401,584	吹田市健康づくり活動推進事業補助金		
		委託料				
		指定管理料				
		その他				
		計	31,401,584			
	ストック	貸付金残高				
		債務保証残高				
		損失補償残高				
		出資金（出損金）	200,000,000	平成3年設立時出損		
		その他				
		計	200,000,000			

令和7年度外郭団体活動状況評価シート No.3

【評価対象期間: 令和6年4月1日から令和7年3月31日まで】

団体名	公益財団法人吹田市健康づくり推進事業団	所管部室(課)名
		健康まちづくり室

1 団体による評価

(1) 運営に関する評価

◎→できている
△→一部できている

○→概ねできている
×→できていない

指針の項目	評価項目	評価	評価の理由
組織及び人事管理	組織や、事務処理に関する規程等を適切に整備している。	◎	組織及び人事管理については、効率的な執行体制の下、規程整備等を適切に行っている。職員の研修に関しては、公益法人協会定例会へ参加するとともに、産学官民連携に関する会議やセミナー、また他市で開催される健康づくり事業に参加し、当事業団の事業や今後の取り組みに生かしている。
	団体の事業規模に応じた簡素で効率的な執行体制としている。	◎	
	コンプライアンス関係規程・必要な体制の整備、ハラスメントを防止するための措置を講じるなど、組織の体制強化に取り組んでいる。	◎	
	団体の事業規模や経営状況に応じた役員数及び職員数としている。	○	
	採用における公正性・透明性を確保している。	◎	
	団体の経営状況に応じた役員報酬や職員給与としている。	◎	
	職員研修の充実に努めている。	○	
事業運営	事業の必要性や意義を見直しつつ、効果的、効率的な事業運営を行っている。	○	イベント等では、医療・福祉・体育関係団体だけではなく、企業・大学・NPO等の協力を得て幅広く健康啓発ができています。また駅前広場や公園等で事業を開催することで、若い世代や健康無関心層にアプローチすることができています。
	事業を継続的に点検し、市民ニーズに沿ったものとしている。	○	
財務管理	中・長期的な経営計画を策定している。	△	適切な財務管理ができており、収支も概ね健全である。自主財源の確保を含めた中長期的な経営計画については、引き続き検討していく必要がある。
	自主財源の確保に努めている。	○	
	各種経費を可能な限り抑制している。	◎	
	最も確実かつ有利な方法で財産の管理運用を行っている。	◎	
	外部の専門家による監査を活用するなど監査体制の強化に努めている。	◎	
情報公開	団体の経営状況、事業計画を公開している。	◎	経営状況、事業計画、役員名簿、議事録をホームページ上で公開している。事業の周知については、ホームページ・チラシ・ポスターに加えて、市の公式ライン等も活用し、随時情報を発信している。
	団体の役員名簿、会議録等を公開している。	◎	
	ホームページをはじめとする多様な手段で情報提供を行っている。	◎	
	個人情報保護に関する措置を適正に講じている。	◎	

令和7年度外郭団体活動状況評価シート No.4

【評価対象期間：令和6年4月1日から令和7年3月31日まで】

団体名	公益財団法人吹田市健康づくり推進事業団	所管部室(課)名
		健康まちづくり室

(2) 事業に関する評価

ア 指標による評価

事業名	活動指標	令和6年度目標	令和6年度実績	(参考) 令和5年度実績
	成果指標			
健康まちづくり支援事業	取組回数	13回	20回	11回
	講習会等への参加者数	400人	1,637人	358人
チャレンジDAY	参画団体数	13団体	12団体	12団体
	イベントへの参加者数(延べ人数)	8,000人	7,337人	7,343人
ロコモティブシンドローム 予防教室	実施回数	12回	11回	9回
	参加人数	350人	317人	237人
実践指導事業	実施回数	17回	24回	
	参加人数	370人	517人	
みんなの健康展	参画団体数	22団体	22団体	23団体
	参加人数	1,500人	1,427人	1,362人

イ 指標で示すのが困難な場合

事業名	活動内容	成果内容
ウォーキング会員事業	いつまでも歩き続けることができるよう、足腰に負担のない歩き方、歩くために必要な筋力、バランス力等について学び、自分で一年間の目標を定めてウォーキングを中心とした健康づくりに取り組む。年度初めに、ウォーキングナビで足にかかる負担度、歩幅、速度を測定し自分の状態を知る。	登録者数は100人。講師による講座、歩き方測定、実践講習を行うことで、足腰に負担のかからない歩き方、歩くために必要な筋力、柔軟性、バランス力などを理解し、いつまでも自分の足で歩き続けることを目標に自主的に取り組んでいる。

(3) 今後の取組方針 ※(1)において◎以外とした事項、課題となっている事項について重点的に記載

自主財源の確保については、これまでも自主事業の開催や新たな賛助会員の獲得に向けて取り組んでいるが、市民の健康づくりを支援する公益目的事業を中心に実施しているため結果として赤字になっている。赤字軽減に向けての計画はあるが、今後安定した組織運営をしていくためには、事業の再編だけでなく組織体制についても引き続き検討していく必要がある。 令和6年度は、昨年度に引き続き企業や大学、地域事業者等の協力を得るとともに新たな連携関係を構築する中で、様々なイベントや身近な場所等において気軽に楽しみながら健康に気づいてもらえる機会を提供することで、若い世代や健康無関心層にもアプローチすることができた。さらに事業団の取組を積極的に地域活動団体等に紹介・提案していくことで、実践指導の依頼が増え、地域のニーズを把握するとともに地域住民の主体的な健康づくりの取り組みを支援することができた。 今後は、吹田市が進める健康寿命の更なる延伸及び生活の質の向上をめざして、当事業団においても企業や関係機関と連携しながら健康無関心層を含めたすべての市民を対象とした健康づくり事業を展開するとともに、健都における産学官民の取り組みに参画することで、産学連携のイノベーションの推進と市民・地域連携の仕組みを理解し、健都と地域を繋ぐ役割について検討していく必要がある。
--

令和7年度外郭団体活動状況評価シート No.5

【評価対象期間：令和6年4月1日から令和7年3月31日まで】

団体名	公益財団法人吹田市健康づくり推進事業団	所管部室(課)名
		健康まちづくり室

◎→できている ○→概ねできている
△→一部できている ×→できていない

2 市による評価

(1) 団体の運営に関する評価

事項	評価項目	評価	評価の理由
団体の存在意義	市民福祉の向上に資する事業を行っている。	◎	当該団体は、設立趣旨として「健康づくり都市宣言」を踏まえた市民の健康づくりの振興を掲げており、本市が推進する「一人ひとりの主体的な健康づくり」に貢献しているため。
	事業の成果が市の施策の推進に貢献している。	○	
事業実施主体としての妥当性	市が直営で行うよりも効果的かつ効率的にサービスを提供している。	○	30年以上地域団体とともに健康づくりに取り組んでおり、また、民間企業との連携や、暮らしに身近な場を活用して啓発を行っているため。
	多くの市民の理解が得られる活動を行っている。	○	

(2) 団体の自己評価に対する市の見解

組織については、団体の事業規模や経営状況に対し、適正な人員体制となっており、団体の職員就業規則に基づき、職員の採用を公募により行う等人事管理は適切に行われている。

事業運営については、団体の設立以降、長らく市民に親しまれる健康づくりの啓発イベントを実施しているが、既存事業の課題を踏まえた事業の見直しを行い、企業との連携を強化しながら、地域住民の主体的な健康づくりを推進するため、事業の再構築を行うなど適切に運営がなされている。

事業の見直しにより、令和6年度において重点的に実施をした健康まちづくり支援事業については、事業の実施回数及び参加人数について目標値を大きく上回ったものの、チャレンジDAYやみんなの健康展については、参加人数が目標値を下回っている。企業や大学、地域事業者等の連携については着実に進められていることから、新たに生まれた企業等とのつながりを活用しながら、既存事業の効果を高めるための方策についても検討を進められたい。また、併せて企業等とのつながりにより実施された事業が、企業等の主体的な事業として各地域に定着したかについて、モニタリングを行いながら、一層効果的な事業運営に取り組まれたい。

また、実施する事業の多くが市の補助金を財源としていることから、補助金を財源としない自主的な事業についても積極的に実施できるよう取組を進めていく必要がある。

(3) 市の関与に関する今後の方向性

本市では市民の主体的な健康づくりを支援するため、各種保健事業の実践、展開をしているが、今後さらなる健康寿命の延伸をめざすためには、市民一人ひとりの自主的かつ継続的な健康づくりの取組を促進する必要がある。

市民の健康増進に寄与する事業を様々な機会を捉え幅広く実施するとともに、今後健都で創出される新たな知見・サービスを各地域で享受されるよう、地域における人・場・情報をつなぎ、地域の実情に合った住民主体の健康づくりの実践に向けた支援を行うことが重要である。

当該団体は、本市の出捐金を基に設立され、同団体が実施する市民の健康づくりを推進するための事業経費は本市から補助金の交付を主な財源としている。現在、補助金の交付対象事業については、市内の各地域において住民の主体的な健康づくりを支援する事業への見直しが進められており、一定の実績が積み上げられていることから、当該見直しによる事業効果等を評価し、効果的な事業の実施に向け、引き続き必要な助言等の支援を実施していく。